

## 2023 年度事業計画

### 1. 成長科学に関する研究助成、活動支援等を通じて科学振興を図る事業（公1）

#### (1) 研究助成事業

##### 1) 自由課題研究

###### a) ヒトの成長に関する臨床および基礎研究

ヒトの成長に関する臨床および基礎研究に、応募の研究者が提案する課題を公募する。

募集期間は、2023年4月1日～2023年6月29日。選考のうえ、10月交付。

助成期間は1年。（1件につき50万円）

###### b) FGHR（Forum on Growth Hormone Research）臨床研究

成長・発達及び内分泌領域に関する臨床研究を対象とし、今後の臨床の発展に寄与すると認められる研究。

募集期間は、2022年12月1日～2023年1月31日。選考のうえ、4月交付。助成期間は1年。

###### c) ノルディサイエンス研究助成

成長ホルモンおよび成長ホルモンの関連因子に関する臨床研究を対象とし、今後の臨床の発展に寄与すると認められる研究。

募集期間は、2023年4月1日～2023年6月29日。選考のうえ、10月交付。助成期間は1年。

##### 2) 指定課題研究

助成期間は原則として1期2年。2023年度は2022年度の継続。テーマ（b）（c）および（e）については、助成期間1年で公募する。募集期間は2023年4月1日～2023年6月29日。選考のうえ、10月交付。

a) 成長ホルモン療法の治療効果に及ぼす諸因子の解析並びにアドバース・イベントの調査に関する研究（200万円）

b) 成人成長ホルモン分泌不全症患者の病態解析、診断、治療及び追跡調査に関する研究（50万円）※2022年度は該当者なし。

c) 成長ホルモン及び関連因子の測定に関する研究（50万円）※2022年度は該当者なし。

d) ヨウ素摂取と甲状腺機能、成長発達との関連に関する研究（70万円）

e) 低身長児（者）の生活の質に関する研究（50万円）※2022年度は該当者なし。

##### 3) 研究年報作成

指定課題及び自由課題の報告をまとめ研究成果として研究年報を作成し関係者に配布。なお、この年報には国外に留学した研究者を併せて収載。

#### (2) 学術団体に対する助成

学術団体が行う学術集会の費用を援助。

- 1) 第 41 回内分泌・代謝学サマーセミナー（日本内分泌学会）を補助（50 万円）  
会長：高橋和広（東北大学大学院医学系研究科内分泌応用医科学分野教授）  
7 月 6 日（木）～8 日（土） 松島大観荘（宮城県宮城郡松島町）
- 2) 第 96 回日本内分泌学会学術総会における若手研究奨励賞（YIA）の副賞の一部を補助  
6 月 1 日（木）～3 日（土） 名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

- (3) 学術集会・シンポジウム等の開催  
今年度の開催は未定

## 2. 成長ホルモン剤の適正使用を推進する事業（公 2）

成長ホルモン分泌不全性低身長症など成長障害疾患患者の治療に使われる成長ホルモン剤の乱用防止、適正な使用を推進。

2023 年度は、各委員会委員任期満了（6 月 30 日）につき、新たに選出。

### (1) 適応判定

#### 1) 成長ホルモン剤の治療適応に関する判定

成長ホルモン分泌不全性低身長症、ターナー症候群、SGA 性低身長症、プラダー・ウィリ症候群、軟骨異栄養症、小児慢性腎不全性低身長症、ヌーナン症候群の 7 疾患に対する治療開始時および継続治療の適応判定。なお、適応判定委員会は定例として年 1 回開催するほか、使用上の問題が生じた場合に適宜適応判定委員会及び専門委員会を開催。

#### 2) データベースの構築と解析

適応判定データについてデータベースの構築と解析をすすめるとともに、SGA 性低身長症については、企業より市販後調査におけるデータの提供等の協力を得てデータベースを充実。データの解析は、成長ホルモン治療研究専門委員会で行う。

#### 3) 一般医に対する相談指導

ウェブサイトより医師からの相談質問を受け、協会の専門医より回答。

#### 4) 成長ホルモン剤治療の適応判定基準につき必要に応じ策定・改定

#### 5) 骨年齢読影サービス（「BoneXpert」使用）

骨年齢読影サービスは、登録患者に限定。

### (2) 成人成長ホルモン分泌不全症及び間脳下垂体疾患に関する活動

#### 1) 成人成長ホルモン分泌不全症

持続型成長ホルモン製剤の市販後調査データの使用に関し企業の協力が得られた。既登録患者の治療成績・追跡調査、ならびに企業による市販後調査のうちデータ提供し承済み症例に関する追跡調査をアップデートする。

#### 2) 間脳下垂体疾患

2010 年（平成 22 年）5 月に協会へ移転された間脳下垂体機能障害調査研究班による 5 疾患（下垂体機能低下症、先端巨大症、クッシング病、プロラクチノーマ、バソプレシン分泌低下症）の登録データを管理する。難病プラットフォームを利用した研究班による疾患登録レジストリ研究事業に協力する形で、症例の登録データ統合を行う。

### (3) 地区委員の活動

- 1) 申請医の相談にのり異議申し立てについて、それ相当の理由があるかどうかを判断。また、その地区の保護者等からの相談・診療の要請に関し、専門医として意見を述べ、必要であれば診療。
- 2) 児童生徒等の発育を評価する上で、身長曲線・体重曲線等を積極的に活用することが文科省より指示されているので、日本小児内分泌学会、日本成長学会、日本学校保健会と協力して、学校医からの成長曲線の判定の依頼や紹介による成長障害児の診療に対処。
- 3) 学術運営委員会から伝達された成長ホルモン剤の適正使用に関する情報を、必要により地区の一般医師に対し伝達。
- 4) 成人成長ホルモン分泌不全症に関する協会の活動への協力。

### (4) 事務局の業務

- 1) 成長ホルモン治療の新規適応および継続適応のコンピュータ処理。判定疑義例について適応判定委員への確認。適応判定委員会の報告。依頼者への通知。
- 2) 成長ホルモン治療に関するデータベースの構築。
- 3) 一般医の相談に対する事務処理。
- 4) 適応判定委員会等諸委員会の開催。
- 5) 適正使用指導事業に関する事務処理。
- 6) 間脳下垂体疾患症例登録のデータ保管。

## 3. 世界のヨウ素欠乏症対策およびヨウ素に関連した事業（公3）

以下の項目について、ヨウ素関連調査研究委員会が主体となって調査、研究を行う。

### 1) 世界のヨウ素欠乏地域の調査研究及び支援

ヨウ素欠乏地域へのヨウ素酸カリの無償提供事業を日本ヨウ素工業会、千葉県、JICA、UNICEF、Iodine Global Networkなどの関係機関等と連携して引き続いて行う。

### 2) ヨウ素摂取過剰地域での甲状腺疾患の疫学調査

日本人のヨウ素摂取量についての学童全国調査の結果を基に、ヨウ素摂取量が著しく多い地域および従来からヨウ素摂取量が多く、甲状腺疾患の頻度が高いとされている地域において、すべての年齢層の住民を対象にヨウ素摂取量と甲状腺疾患の頻度、甲状腺機能との関連について研究を行う。

### 3) 児童のヨウ素栄養状態に保護者のヨウ素摂取と学校給食が及ぼす影響について、全国調査を行う。

### 4) 新生児、乳児、妊産婦のヨウ素摂取と甲状腺機能、発育、発達との関連

- ・妊産婦のヨウ素摂取量に関連した甲状腺機能異常の発症頻度、臨床像、予後
- ・日本の乳幼児のヨウ素摂取量が不明であるので、母乳、市販の育児用ミルク、離乳食のヨウ素濃度を測定して、ヨウ素摂取量と母子間ヨウ素代謝を明らかにする。

### 5) ヨウ素摂取が健康成人の甲状腺機能に及ぼす影響（ヨウ素誘発性甲状腺疾患）

食品からのヨウ素摂取が健康成人の甲状腺機能に及ぼす影響についての研究（北海道漁業協同組合連合会の支援、協力による）を引き続いて行う。

### 6) ヨウ素摂取量を個人レベルで正確に評価するための方法、すなわち生体試料（血清、乳汁、毛髪）中のヨウ素含有量測定法および食事調査法を開発する。

- 7) 上記研究項目についての研究助成、会議出席・学術関連会議等開催、研究成果の学会発表、学術論文刊行を支援する。

#### 4. 倫理審査

協会の倫理審査委員会において、事業や研究の審査を実施する。

#### 5. 広報

- (1) 「協会ニュース」を年4回発行。
- (2) 「成長科学協会のしおり」を年1回発行。
- (3) ウェブサイト  
随時ウェブサイトを更新。研究成果、事業内容等について情報公開を推進。
- (4) 情報提供活動の強化
  - 1) 適応判定依頼医師への研究成果・情報の提供。
  - 2) 成長障害疾患の患者、家族等に対する啓発・支援、講演会等の後援。
  - 3) 「心の発達研究委員会」編集によるコミュニケーションペーパー“こころん”のウェブサイトへの掲載。